ユネスコ群馬 No.85

Unesco Gunma

群馬県ユネスコ連絡協議会 ／ https://gunma-unesco.com　　会長　岸 正博 ／ 群馬県教育委員会生涯学習課

つなげよう平和の心　広げようユネスコの輪

年頭のご挨拶

群馬県ユネスコ連絡協議会

会長　　岸　正博

明けましておめでとうございます。

再び今年こそと思いを新たに、平和な世界の実現を願うばかりです。昨年11月渋谷で「SDGs グローバルガバナンスサミット2023」が開催され、6名のノーベル平和賞受賞者が「戦争のない世界の構築を目指すために」という共通のテーマで講演を行いました。

ロシアによるウクライナ侵攻、イスラエルとパレスチナの問題など解決の見通しがつかず、国連も機能せず、混迷の世界となっているいま、主催者は、「今こそ、世界中の民衆が団結して戦争のない平和な世界を作ろう」と呼びかけました。

2011年受賞のリベリアの平和活動家、レイマ・ボウイ氏は、「世界の求める平和を実現させるためには、女性を傍観者としてではなく、大きな原動力として考えなければならない」、2014年受賞、インド人の人権活動家、カイラシュ・サテイヤルテイ氏は、「イスラエルやパレスチナの子どもたちは私たちの子どもなのだという意識を持つ必要がある」など、訴えました。

民主主義の危機ともいえる状況の中、教育、科学、文化、情報・コミュニケーションを通じて、平和や持続可能な社会の構築に貢献するユネスコの理念を再認識するとともに、ESD/SDGsの推進を関係機関、ステークホルダーとととともに発信していきます。

新年のごあいさつ

群馬県教育委員会

教育長　　平田　郁美

明けましておめでとうございます。

群馬県ユネスコ連絡協議会の皆様におかれましては、日ごろからユネスコ憲章のもと、皆様が一つ一つの活動を積み重ね、御尽力いただいておりますことに心より感謝申し上げます。これらの活動においては、コロナ感染症の５類移行により、これまで積み重ねてきた事業に新たな工夫を加え、さらなる活動の推進に取り組まれていることと思います。

特に、昨今は、ウクライナ危機、中東での対立など心を痛める世界情勢も報じられておりますが、群馬県ユネスコ連絡協議会のウクライナ支援への積極的な取組等をたいへん心強く感じるとともに、ユネスコ活動の重要性を改めて認識しているところです。

さて、県教育委員会では、第３期群馬県教育振興基本計画の最終年度を迎え、これまでの取組の成果と課題をまとめるとともに、国の教育振興基本計画の持続可能な社会の創り手の育成、ウェルビーイングの向上などの考え方に基づき、次期計画の検討を進めております。これらの内容は、群馬県ユネスコ連絡協議会のESDの推進拠点として非常に重要な活動であるユネスコスクールの取組などと共通しており、今後さらなる連携の重要性を感じております。

結びに、世の中の平和を願うとともに、群馬県ユネスコ連絡協議会の御発展をお祈り申し上げ、新年の御挨拶とさせていただきます。

県ユ連主催事業

群馬県ユネスコ連絡協議会 視察研修 IN 安中
―アプトの道ウォーキング―

安中碓氷ユネスコ協会会長　矢野　薫

▲和太鼓演奏する安中総合学園高校生

令和5年6月4日(日)、前日の雨の予報を覆し快晴のもと、安中市松井田町坂本の峠の湯発着で、群馬県ユネスコ連絡協議会視察研修IN安中「アプトの道ウォーキング」を開催しました。

日本ユネスコ協会連盟は、100年後の子どもたちに地域の文化・自然遺産を伝えるため未来遺産運動を推進しています。

本視察研修は、碓氷峠鉄道施設の歴史的価値を伝え、郷土の貴重な遺産の保護・保全のあり方を探り、県内各ユ協の活動の更なる活性化を図るとともに、県内会員相互の親睦を深めることを目的とし開催しました。参加者は県内ユ協会員44名その他鉄道愛好者などを含め164名でした。

来賓に安中市長、県会議員等を迎え、安中総合学園高校生による和太鼓演奏のアトラクションに続き、特定非営利活動法人碓氷峠歴史文化遺産研究会代表(NPO法人碓氷峠浪漫倶楽部)の萩原豊彦氏を講師に迎え、峠の湯から旧熊ノ平駅までのアプトの道を歩き、鉄道施設を実際に視察しながら、歴史・文化的な価値や実際にどのように使用されていたか等について研修しました。

▲津軽三味線の上原梅弦氏(左端)と岸正博会長(右端)

途中、上原梅弦氏の津軽三味線を聴いていただいたり、めがね橋上でシャボン玉大会を実施したりし、参加者に楽しんでいただきました。事業の目的である、碓氷峠鉄道施設の歴史的価値を伝え、郷土の貴重な遺産の保護・保全のあり方を探り、各ユ協の活動の更なる活性化を図るとともに、県内会員相互の親睦を深めることができました。県内各地から参加していただいた会員の皆様に感謝申し上げます。

運営研修会兼事務局員研修会 in富岡

富岡ユネスコ協会事務局長　島崎　佳彦

令和5年10月28日(土)13時より、雲一つない晴天の中、富岡市一ノ宮の高台にある社会教育館を会場に県内各ユ協33名の参加で研修会が実施されました。

開会時には、ご来賓の服部教育長様より、ユネスコへの期待など温かいご祝辞をいただきました。

研修会の内容は、前半が講演会、後半が県内11ユ協のアンケートを表にした資料を元にディスカッションを行いました。

講演会では、富岡市社会教育館館長の山内久志様より、昭和11年に建てられた社会教育館の前身である東國敬神道場の歴史をお話していただきました。
戦前戦後の移り変わりなど、とても興味深いお話が聞くことが出来ました。改めて、今ある平和は昔の人々の犠牲や努力によって成り立っていると言っても過言ではないと実感いたしました。

講演後、ディスカッション前の空き時間を利用し、社会教育館内の見学をしていただきました。社会教育館の設計は、当時の我が国の伝統建設を先導した大江新太郎の主宰する「大江國風建築塾」によるもので、歴史的・文化財的・建築学的価値の高い近代和風建築で日本の伝統的な建築要素随所に採用しています。皆さまからは「素晴らしい」「このような建物が富岡市にあったとは」とお褒めのお言葉をいただき、富岡市民として誇りに感じております。

4テーブルに分けたディスカッションは、アンケート結果を元に各ユ協の考え方や取り組みを話し合いました。発表内容としては青年(大学生・高校生を含む)会員に入会してもらうにはどうしたらよいか、地域や学校に理解してもらう(取り込む)にはどうしたらよいかなど多くの意見が出され有意義な時間となりました。

研修会終了後には、小林宮司様の案内で国指定重要文化財貫前神社を約1時間見学させていただきました。

▲講演会

▲館内見学風景

「海外青年交歓研修会」

大泉ユネスコ協会副会長　槻岡　則夫

ようこそ　大泉町へ

県ユ連のホスト事業「海外青年交歓研修会」を令和5年11月25日(土)洋泉興業大泉町文化むら展示ホールを会場に開催されました。

本事業は国際理解・国際交流を促進し、異文化を理解し多文化共生を深める事にあり、近年増加する本県の外国人との共生が今日的課題であります。

本県の外国人住民数は令和4年12月末現在、県全体で65,326人、内訳は伊勢崎市14,045人、太田市12,091人、大泉町8,215人、で大泉町の最新のデータでは令和5年11月末現在8,306人で、外国人比率20.01％。町民の5人に1人が外国人の町です。

研修会は、講話「つながる　つなげる　多文化共生」と題し、講師は大泉町役場多文化協働課の職員が担い、これまでの町として、外国人との共生、異文化理解を様々な角度から推進してきた事、教育面でも早くから外国人子女教育の研究にも取り組んできた事例など話されました。講話の途中で研修会会場の階上スペースでブラジル大使館の職員が来町し、在日ブラジル人の各種申請の手続きなど利便性を図っている現場も見学して頂きました。講話後は活発な質疑応答があり、

・多くの外国人(51ヵ国)が暮らし定住者も70％を超える中、7名の通訳や案内表示7言語で充分か。
・教育面で高校進学などの状況や課題など。
・外国人と、どのような共生が成されているのか。具体的に例えば、外国人の自治会長や町や地域の各種役員を担っているか、など質疑がありました。

次は「群馬県大泉町でアイデンティティーを考える」と題し、講師の平野パウロ氏がブラジルから日本(大泉町)へ来日から今日までの体験の中で、文化や生活習慣の違いからカルチャーショックを受けた中でも、救いは温かい声を掛けて頂いた事が心の支えとなり現在に至っていると語っていました。最後に「アトラクション」でギター演奏と歌を披露して頂き研修会を終了しました。

▲開会行事・寺西会長あいさつ

第9回　群馬県ユネスコスクール研修会

県ユ連事務局長　依田　治雄

第9回県ユネスコスクール研修会が12月12日(火)、地域づくりセンター藤岡で実施された。

Ⅰ部は、横浜市教委指導主事3名が地域・社会との連携・協働について、横浜市立学校における取組の実践と評価を二次元コードでの参加者76人の情報交換を行いながら、発表した。

▲二次元コードを活用した情報交換

▲質疑応答

演題は、「横浜市立学校におけるSDGs達成の担い手育成(ESD)～はまっ子未来カンパニープロジェクトによる地域・社会との連携・協働～」。横浜市では、多様な組織が参加・連携した「横浜市ESD推進コンソーシアム」を立ち上げ、ESDに関連するキーワードの下で取組を進めている。

Ⅱ部は、県立渡良瀬特別支援学校、地域企業(株式会社ベルク)からのESD/SDGsの実践報告。学校が地域や企業、団体と連携・協働して、地域や社会の課題を解決することの価値について認識を新たにした。

渡良瀬特別支援学校は、「自然豊かな鹿田山の魅力を生かした実践～地域とつながるユネスコスクールをめざして～」が演題。障害を持った児童生徒が社会人としてやっていける基礎作りとして先生方の指導のもとに生き生きとして活動に取り組んでいた。ESD活動を通して子どもたちが挨拶の大切さを学んだり、地域の人たちとのかかわりを持てたりする姿を見ることができた。

もう一つの報告は、スーパーマーケットを展開するベルク、「サステナビリテイ広報室」を立ち上げ、本業を通したSDGsの実践を行っている。演題は「ベルクのサステイナブルな取組の紹介」、利益の追求のみでは生き残れないということ、フードロスや産地との結びつき、リサイクルの努力、太陽光による発電、節電システムなどの取組が発表された。「過去ではなく、未来を描く」とした経営戦略のもと、取り組むことがゴールではなく、目指すゴールに対して何をするのかが肝要としている。

質疑応答も活発に行われ、有意義な研修会となった。「熱心な先生が転任しても活動が進むこと、当たり前を疑うこと、自分づくり、決める力」という言葉が特に印象に残った。

各ユネスコ協会だより

桐生ユネスコ協会

国際交流と平和

会長　田中　一枝

2023年は、新型コロナウイルスが第5類になり、ややホッとした半面、世界は、ロシアVSウクライナ、イスラエルVSハマス、アフガンvsタリバン等々と、幼い子供や病人が多く犠牲となる人道を越えた紛争が続き、又、地球は温暖化による異常気象で、人間は勿論、動植物の犠牲が計り知れない今日、何が起きても可笑しくない世界情勢にあります。そうした中にあって、平和とは何か？私達に何ができるのか？深刻に考えさせられます。

今年、桐生ユネスコ協会は創立75周年の記念講演として(少しオーバーですが)、国際平和と文化振興を図る目的で、南アフリカにあるレソト王国の駐日大使をお招きしました。幸運にも当協会の副会長が、桐生に領事館を開設しているご縁で実現したもの。パレサモッツェ大使は、政府間のみならず、人と人との交流を通じて、両国の関係がより深まることを願っているとの語り掛けに感激致しました。運転手を含め総勢6名の来訪には、大使の身の安全を図るためにもお迎えする準備は、会員一同大変なものがありました。名誉会員をお願いするとともに、来年5月の桐生市の文化祭には、国際交流を更に密にするため、レソトの写真展を開催する予定です。

▲レソト王国駐日大使をお招きして

11月、今年もまた、クラッシックカーフェスティバルでは、子供のお絵かきをロータリーとユネスコの協力で手伝いをしました。12月、今年最後の例会は、1600年、徳川家康の命により佐渡金山で有名な大久保長安の番頭、大野八右衛門が桐生の町立てを実現した歴史の講話を開く予定です。桐生に生まれ、育ち、又は、生活している会員にとって、歴史と文化の流れは有意義なものになるはずです。

太田ユネスコ協会

持続可能なユネスコ活動

会長　中村　利光

当協会の主な事業は国際理解バス、イングリッシュスクール、出前授業、児童生徒作品展、高校生ユネスコ文化祭、ユネスコ新聞発行です。コロナ禍で中止する事業もありましたが、どれもユネスコ精神の普及に大きな意義があり今年度は積極的に再開し取り組んで来ました。4年ぶりに本格的に再開する事業では、役員の平日参加が難しく内容や運営の工夫が必要となりました。また、事業には多くの経費が必要で会員からいただく会費だけでは運営が難しいため、援助をいただいていた団体との調整も危惧されました。

そうした中、児童生徒作品展では応募に際し園や学校の先生方のご指導とともに、諸団体からコロナ禍前と同様の援助金をいただくことができました。また、小中義務教育学校42校からPTA各2名の方々が作業へ応援もいただき大きな力となりました。展示会場には2,350人の来場があり、応募した園児・児童・生徒543名全員に賞状や参加賞を贈呈することもでき、子ども達が喜びや意欲を持って園や学校生活を過ごすことへの一助となりました。

イングリッシュスクールも4年ぶりの本格再開で、教育委員会からALT19名の派遣をいただき、協賛団体からも同様の援助金をいただくことができました。学校の先生方の積極的な支援もあり、30名の中学生がアイスブレーキングやグループ別プレゼンテーションなどを積極的に行い、ALTとの交流や英会話活動を楽しんでいました。

持続可能なユネスコ活動を実践していく上で引き続き工夫や改善を図る必要性とともに、各方面の温かいご理解とご支援なしに活動が成り立たないことを、改めて強く感じる一年となりました。

▲イングリッシュスクール(プレゼンテーション)

前橋ユネスコ協会

「平和の鐘を鳴らそう」太陽の鐘をつく

事務局長　樺澤　富美男

前橋ユネスコ協会では、昨年から日本ユネスコ協会連盟の「平和の鐘を鳴らそう」の趣旨である、恒久平和や貧困のない21世紀を目指して始まった運動に合わせて、会の活動のPRを兼ねて、去る7月15日(土)に鐘を鳴らしました。場所は、前橋市内、市街地を流れる広瀬川河畔にある「太陽の鐘」を利用させていただきました。この鐘は、世界的な芸術家岡本太郎が作成したもので、1966年作とのことです。静岡県内にありましたが、関係者の尽力で2018年に移設されたものです。平和の鐘を鳴らす趣旨に賛同した前橋ユネスコ協会では、この鐘が世界各地の紛争地の停戦、早期解決と先の大戦で不幸にしてなくなられた方々やご遺族へ恒久平和の誓いと願いを込めて、微力ではありますが、鐘を行うことといたしました。前橋市では特に昭和20年8月5日は、第2次世界大戦で空襲があり、多くの市民が犠牲になられたということです。なお、7月19日が「民間ユネスコの日」とされていることから、その日に近い休日を選んで実施してきました。鐘は前橋市が管理するもので、普段は自由につくことができません。使用申請をしてから使用ができます。事前に予行演習してから実施しました。

▲ 太陽の鐘をつく

当日は、天候が心配されましたが、曇りで安心しました。会員や家族をはじめ少ない人数ではありましたが、通りすがりの市民の方々や観光客の皆様を交え、力を合わせて鐘をつきました。岡本太郎を知るデンマークからおいでのご夫妻、前橋市長の山本龍ご夫妻の皆様とともに願いを込めてつきました。世界では未だに紛争が絶えません。いち早く停戦、解決の道が開かれんことを祈るばかりです。

伊勢崎ユネスコ協会

アフターコロナのユネスコ活動

会長　長沼　宏泰

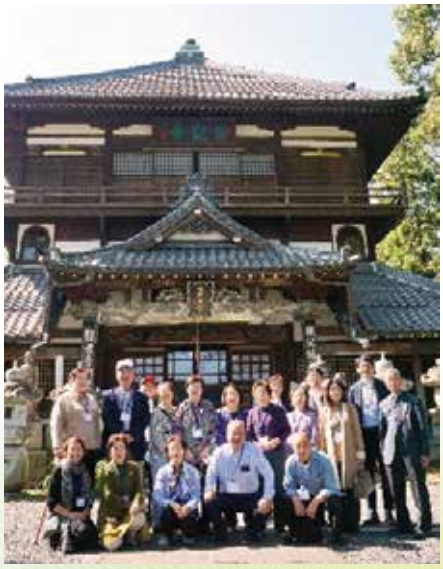
令和5年度は新型コロナウイルス感染症下でできなかった活動を通常に戻す必要があると考えて、役員会で議論しました。もとよりユネスコ活動の浅い私ですので、長く活動してこられた先輩方の気持ちを大切にしつつ、会員の皆さんが楽しく参加できる行事、新たな会員の獲得を目標に活動してきました。

5月19日(金)伊勢崎ユネスコ協会の総会を開催、正式に会長に就任いたしました。提出した議案を全て承認して頂いた後、講演会を開催しました。JICA群馬デスク所属国際協力推進員の宮田峻弥様から「異文化理解を考える～ガーナでのJICA海外協力隊の経験から～」という演題で講演頂きました。ガーナでの体験から、日本との考えや時間の観念など常識そのものが違い、自分の考える理想が理解されないなど、改めて異文化理解の難しさを知り、自分の出来る事、行動する事の大切さを再確認したという内容でした。

子ども作品展は8月15日(火)～8月18日(金)、赤石楽舎を会場に行われました。一般の参観者が例年と比較して少なかったので、次年度からは、再び伊勢崎市役所東館市民ホールで開催できるように検討してまいります。今年度で47回目となる伝統的な活動ですので、ユネスコ活動を市民の皆様に知って頂く機会として、更に充実させたいと考えています。

10月12日(木)には、4年ぶりに秋の研修を開催しました。太田の歴史を訪ねて、中島知久平邸、高山彦九郎記念館、曹源寺さざえ堂、縁切寺満徳寺、新田荘歴史資料館、世良田東照宮と盛り沢山のコースでしたが、全ての見学地で説明員がつき丁寧に解説して頂き、充実した一日となりました。

今後は、書きそんじハガキの回収、新春会員の集い、ユネスコ新聞の発刊等実施してまいります。最後になりましたが、会員の増強も進みつつありますので、更に充実した活動にしていきたいと思います。



▲ 曹源寺さざえ堂

高崎ユネスコ協会

コロナ禍で生まれた活動に視点をあて
～国際理解展示会・下仁田ジオパーク・ウオーキング～

会長　串田　昭光

本協会は、コロナ禍およそ3年間(2020年4月7日緊急事態宣言発令・2023年5月8日宣言解除)の状況下、毎月理事会を開催しました。それは、世界の平和・世界の国々の理解と協調を願う国際感覚を身につけた青少年の健全育成をめざしてのことでした。また、活動を通して「持続可能な社会の実現に向けた担い手となる」、さらには「持続可能な開発目標(SDGs)を理解しその実現に貢献する」ことのできる青少年を育てたいとの思いでもありました。以上の考えで、コロナ禍で生まれた下記の事業に取り組みました。

1　第3回を迎えた国際理解展示会(日ユ協SDGs助成事業)の目的は、「Peace for Tomorrow(広げよう平和の心)」でした。会員は、その達成に向けて海外駐在や研修・観光で体験したその国の歴史・文化・慣習等を伝えること、手に入れた貴重な特産品や独特の民族衣装などを展示・説明すること、民族楽器を演奏すること等を通して参加した小中学生や市民とそれらを共有しました。活動の充実や継続のため子どもや市民へのさらなる啓発の創意工夫を考えています。

2　第1回下仁田ジオパーク・ウォーキング(青少年キャンプ代替事業)は、2年間応募者足らずで流れましたが、今年は、参加者20名により実施することができました。目的は、上信電鉄を使った下仁田ジオパークの散策や研修を通した魅力の発見でした。子どもは、自然史博物館員の解説を聞き大地の変動の理解、特産の手づくりコンニャク体験で伝統産業の価値などを身近に感じたようでした。将来的には、高ユ協・スタディーツアーを視野に入れています。

▲国際理解展示会

富岡ユネスコ協会

国際理解バス研修会 2023

会長　矢野　英司

国際理解バス研修会を令和5年8月23日に開催致しました。今回の訪問先は青山一丁目駅のすぐそばにあるカナダ大使館にお邪魔させて頂きました。

私たちを出迎えてくれたのはカナダ大使のイアン・G・マッケイさん。流ちょうな日本語で歓迎の挨拶を頂き、その後ご担当者に館内を案内頂きました。館内に足を踏み入れると、そこはもはやカナダ、庭全体を使ってカナダの地形を表した「カナダ・ガーデン」や、様々なカナダ文化を伝えるギャラリー、イベントなども開催されるシアター、カナダに関する図書を約15,000冊も所蔵する図書館があり、誰でも無料で使用できるそうで、留学向けの資料や子ども向けの設備も整っていて、参加した子どもたちもカナダの絵本を手に取り興味深く拝見していました。

中でも印象的だったのは赤毛のアンのコーナーで、私も子どもの頃に赤毛のアンの本を読んだ覚えがあります。確か11歳で孤児院から農家に引き取られ生活して行くアン自身の成長過程を記した話だったと思います。明るく元気で読書好きで、一度話始めると止まらないほどおしゃべりで皆に愛されるキャラクターだった記憶が蘇りました。近いうちに改めて読み返してみようと思いました。

カナダの人口は約3,900万人、これは東京都市圏(東京都・神奈川県・千葉県・埼玉県)の人口とほぼ同じ数だそうです。国土面積は日本の26倍ほどの大きさとなるようで、かなり広大です。カナダでは、オーロラやナイヤガラの滝をはじめとした雄大な自然が作り出す景観が魅力だそうです。普段都市部で生活している人にとっては、景色の広大さ、木々の彩りなどは鮮明に感じられ、まさに非日常的な空間の中で感動的な経験を味わえるということです。また、カナダの人気のお土産はメイプルシロップで、世界の流通する量の7割をカナダ産が占めるという産業になっているとのことです。メイプルシロップは自然から取れる最もおいしい食べ物のひとつですが、なんと、天然メイプルシロップ1リットルを作るのに、40リットルもの樹液が必要なのだそうで、びっくりです。

この度のカナダ大使館にお邪魔し多くの学びを得ることができました。これからの活動もユネスコの精神を基本的に考え、国際平和構築のため活動して行きたいと思います。

今後ともユネスコ協会の活動に対しましてご理解ご協力を頂きますようお願い申し上げます。

▲カナダ大使館

沼田ユネスコ協会

安中・藤岡方面の史跡を訪ねて

事務局長　大島　俊夫

今年度は新型コロナウイルスへの対応が緩和されたこともあって、沼田ユネスコ協会では定期総会や平和の鐘を鳴らそう、研修視察などの行事が4年前に近い形で実施することができました。ただ、中学生や高校生が毎年楽しみにしているJICA・JAXAを訪問する「国際理解バス」が今年も実施できなかったことは大変残念でした。

研修視察は11月22日、快晴の絶好の旅行日和の中、会員21名の参加で安中・藤岡方面に行ってきました。事前に副会長の小野瀬和男さんと事務局の星野孝文さんが現地と連絡を取り合いながら、綿密な計画を立ててくれましたので、非常に密度の濃い充実した研修になりました。

安中では旧安中藩郡奉行役宅や武家長屋を見学し、説明も受けました。また、学習の森ふるさと学習館で、碓氷の関所の企画展を見て、「入り鉄砲と出女」の厳しい取り締まりの様子が理解できました。

▲旧安中藩郡奉行役宅にて

藤岡では藤岡歴史館で学芸員の方の説明を受けた後、白石稲荷山古墳と七輿山古墳を見学しました。五世紀から六世紀にかけての西毛地区の古墳文化の高さを感じることができました。

なお、今年度の沼田ユネスコ協会の特記事項は地元の沼須人形芝居あけぼの座が日ユ協の未来遺産に群馬県で初めて認定され、9月の関ブロユネスコ活動東京大会で紹介できたことだと思います。

今後も地域の文化遺産や伝統芸能、豊かな自然環境などを守る活動に協力していきたいと考えます。

▲藤岡市毛野国白石丘陵公園　七輿山古墳にて

館林ユネスコ協会

「令和５年度の活動報告」

会長　大野　泰弘

令和5年度の館林ユネスコ協会の活動について、紹介します。

5月28日(日)には、市内で開催された「ふるさとづくり市民フェスティバル」に参加しました。出汁やおでんなどを販売し、無形文化遺産である「和食」の良さを伝えるとともに、館林ユネスコ協会の活動啓発や会員募集を呼びかけました。

7月27日(木)には市内の小学4～6年生を対象にした、ユネスコサマースクールを実施しました。研修先は埼玉ピースミュージアム(平和資料館)と埼玉県立川の博物館とし、参加者は児童・会員・事務局の計39名でした。ピースミュージアムでは、アニメ映画鑑賞や防空壕体験等を通して平和の大切さを学びました。川の博物館では、日本一川幅が広い荒川について学習したり、ウォーターアスレチックで遊んだりしました。特にウォーターアスレチックでは、子どもたちの笑顔を見ることができ、元気をもらいました。昨年度に続き、今年度も参加児童に感想文を書いてもらい、学習の振り返りの時間とし、学びを深めてもらいました。提出してもらった感想文を読みますと、平和やきれいな水の大切さを学ぶだけでなく、児童交流の場ともなったことが窺えました。

▲埼玉ピースミュージアム

▲川の博物館

今年度は、コロナ禍で中止していた、定期総会後の懇親会や暑気払い、館林ユ協視察研修を実施し、会員の交流を図りました。当協会は、会員相互の結びつきが強いため、交流の場は今後も大切にしていきたいと思います。

安中碓氷ユネスコ協会

ユネスコの理念を次世代に引き継ぐ

会長　矢野　薫

今年度、ウクライナを支援する活動が大きな柱でした。5月定期総会会場にて、6月県ユ連視察研修会場にて、4月～7月矢野事務所にて募金活動を実施、7月には、群馬大学ウクライナ研究生・留学生に募金をお届けしました。そして、7月～10月矢野事務所にて、9月には、安中ロータリークラブ(櫻井雅寿会長)例会にて、9月30日には、3名のウクライナ留学生も参加してベイシア安中店にて街頭募金活動を実施、10月21日群馬大学ウクライナ研究生・留学生に支援金をお渡ししました。

ユネスコの目的は、ユネスコ憲章前文の「戦争は人の心の中で起こるものであるから、人の心の中に、平和の砦を築かなければならない。」に尽きます。2022年2月、ロシアによるウクライナ軍事侵攻が始まると、ウクライナ隣国のルーマニアやポーランドの避難民を支援しました。そして2023年5月、県ユ連総会で、ウクライナの方が群馬大学に来ていることを知り、すぐにアポイントを取りました。戦争体験を、次世代を担う若者たちに語ってもらい「人の心の中に平和の砦を築く」ためです。

▲ウクライナ留学生

10月21日市内の高校生を中心に安中市国際交流協会、安中ロータリークラブ、米山奨学生(ベトナムからの留学生)の参加を得てユネスコシンポジウムIN安中2023を開催しました。ユネスコスクール(新島学園、碓東小学校)の実践発表、県ユ連、岸正博会長の講評に続き、「ウクライナ避難民の現状を知り、戦争の悲惨さ・平和の尊さを考えよう」のテーマで群馬大学ウクライナ研究生・留学生4名が経験した、軍事侵攻と避難生活の実態を、映像を交えてプレゼンテーションしていただきました。

シンポジウム後半の意見交換では、ユネスコの理念「人の心の中に平和の砦を築かなければならない」に迫る発表がなされ、参加者は、戦争の悲惨さ平和の尊さを実感し、戦争を起こさないために「何ができるか」「何をすべきか」を考え発表しました。

シンポジウム開催にあたり、群馬大学ウクライナ研究生・留学生の皆さんを始め、副学長・グローバルイニシアティブセンター長である飯島睦美教授に全面的なご支援・ご協力を賜りましたことに心より御礼申し上げます。

藤岡地方ユネスコ協会

藤岡地方ユネスコみらいオーケストラ

会長　岸　正博

設立は2002年、藤岡市文化事業団主催「みらい音楽広場」に参加していた子どもたちを中心に発足。県内ユ協唯一のオーケストラである。

本年度の第17回定期演奏会は、10月9日(日)みかぼみらい館ギャラリーで開催された。100名を超える来場者で立見が出るほど。オープニングの、講師によるクラリネット、ビオラ、ピアノの三重奏、ブルッフの「8つの小品」は特に秀逸だった。以下、「となりのトトロ」「ゲゲゲの鬼太郎」、パッヘルベルの「カノン」、バッハ「主よ人の望みの喜びは」「二つのヴァイオリンのための協奏曲」、チャイコフスキー「くるみ割り人形」と続く。

▲講師による三重奏

後半は、講師であるマリンバ奏者、榊原あいさんの演奏。「ジャングル・ウオーク」「夕焼け小焼け」「レインダンス」「虹のかなたに」。プロのリズミカルな演奏を楽しむ。

演目最後は全団員によるエルガーの「弦楽セレナーゼ」。1892年、妻、キャロライン・アリスに結婚記念日のプレゼントとして送られた曲。盛大な拍手とアンコールで終演となる。

▲第17回定期演奏会

2021年、東京文化会館での小澤征爾音楽塾の特別公演で小澤征爾氏は「音楽は人間の魂にとって本当に大切なもの」とメッセージを寄せた。

ユネスコみらいオーケストラの目的は、「演奏活動を通して、より豊かな感性や情操を育む」「地域交流、国際理解・交流を図る」「ユネスコ憲章の体得と世界平和に実現に進んで貢献しようとする」である。音楽は言葉や習慣、国境などの壁を乗り越え、感動を共有する。感動と「人類の知的及び精神的連帯」の上に築かれた共感と連帯は、平和な世界の実現につながると確信したい。

大泉ユネスコ協会

今年度の活動状況の報告

副会長　槻岡　則夫

今年度もコロナ禍の活動開始となり、諸般の状況を熟考し、前年度の経験も踏まえ各種事業を推進中。

5月13日定期総会を開催し今年度も新たに始動。

7月2日「民間ユネスコ運動の日」記念事業として『マンドリン演奏会』を昨年に続き好評により開催。参加された方の感想を掲載します。70代女性。『平和の有難味を感じて』と題し、初めて記念事業に参加しました。「ひまわり」50年以上前に観た映画主題歌に懐かしさと切なさが蘇ってきました。戦争が生んだ悲劇であり、今も何処かで涙する人達のことを考えると「平和」の有難さをつくづく感じさせられました。25名の素晴らしい演奏者とユネスコ役員さんに心から感謝申し上げます。他2名の参加者からも、感想文が寄せられました。

8月3日「国際理解バス研修会」を4年振りに開催。従前同様につくば市内のJICA(日本国際協力機構)とJAXA(日本宇宙航空研究開発機構)の2ヶ所で中学生の参加者は研修視察を行い、人生初めての貴重な体験を沢山できたと語ってます。研修を通じ国際理解や援助、宇宙開発の現況や未来について学びと共に外国研修生と英語で話した事、そして普段叶わない他校生と話が出来た事が大変良かったと感想を述べています。今回の研修が参加者に将来様々な形で生かされる事を期待しております。

9月27日「会員研修視察旅行」を栃木・日光方面で研修と参加者の交流を深める旅に出掛け訪問先順に「今市の酒蔵見学」「日本こころのうたミュージアム・船村徹記念館」「日光田母沢御用邸記念公園」と見学し中禅寺湖湖畔で昼食後「華厳の滝」「日光二荒山神社」見学後車内で恒例の「ビンゴゲーム」最後は「りんご園」に立寄り試食と買物を済ませ帰路の車内で昔懐かしい歌集で合唱し楽しく過ごすことが出来ました。

11月3日「世代間交流意見発表会」は4年振りの開催。発表者は中学生、高校生、成人、高齢者、外国人の8名。発表を通じ年齢や国の異なる人達の貴重な考えや体験等を聴くことで世代や性別、国などを越えて相互に理解し合う事が出来ました。

今年度、残された事業についても精力的に取り組んでまいります。

▲マンドリン演奏会

国際ソロプチミスト前橋

夢を拓く:女子中高生のためのキャリアサポート

会長　飯塚　紀子

ソロプチミストという名称はラテン語のSoror(姉妹)とOptima(最良)からの造語で、女性のために最良(Best for Women)を意味しています。

国際ソロプチミストは国連の経済社会理事会(ECOSOC)の総合協議資格を持つ数少ない女性のNGOであり、女性と女児の地位と生活を向上させるために活動している女性による奉仕団体です。1921年カリフォルニア州オークランドで職業を持つ80名の女性によって結成・開始された活動は、現在、世界122の国と地域で約70,000人が参加するまでに広がっています。日本国内には約450クラブ、約8,000人がソロプチミストの諸活動に参加しています。

ソロプチミストは二つの「夢プログラム」を通して困難な状況にある女性と女児の生活向上のために資金援助を含む支援を行っており、その取り組みが評価されて国連のSDGsベストプラクティス賞に選ばれています。

「夢プログラム」の一つである「夢を拓く:女子中高生のためのキャリアサポート」は、女子中高生が自信を持って成功できるよう、そして将来の成功を阻む障害に直面している女子中高生が幸せな大人になることを助けるためのプログラムです。私たちSI前橋も長年、開催に向けて勉強会への参加等の準備をしてきましたが、昨年7月・8月には日本東リジョンでの合同開催の2回のプログラムに、SI前橋推薦の延べ3人の女子高校生が参加し、SI前橋の会員もファシリテーターとして参加する機会を得ました。関東地方・新潟・山梨各地区からの高校生が、ソロプチミスト会員のサポートのもと、少人数のグループワークショップやゲームを取り入れる中で、目標の設定と達成、挫折や失敗の克服、キャリアの機会の発見について楽しみながら学びました。私たちSI前橋にとっても懸案だった「夢を拓く」への参加に一歩を踏み出せた意義深い機会でした。

地域での奉仕活動を基盤にしながらも、世界中のソロプチミストと共に、女性と女児の問題の解決に貢献していきたい―私たちソロプチミストの抱く「夢」です。

▲日本東リジョン・夢プログラム

2023年度関東ブロック・ユネスコ活動研究会 in 東京

2023年9月3日（日）、青山学院大学本多記念国際会議場で開催された。

テーマは「Together for Future、国や文化、あらゆる違いを超えて心に平和の砦を築こう!」。会員相互が交流を深めながら、ユネスコの理念やSDGs・持続可能な未来の実現に向けて、私たちに今、何ができるかを共に考える研究会であった。

特別講演では、コシノジュンコ氏が「ファッションの持つエネルギー」と題して講演。1978年よりパリコレクションに参加後、世界各国で開催したファッションショーの様子を音楽と映像を交えて紹介した。エネルギッシュな生き方、貴重な体験談から、多くを学び、生きる糧をいただいた。

報告では日本ユネスコ国内委員会委員松本千恵子氏（高崎ユネスコ協会）が日本ユネスコ国内委員会の最近の動きなどを報告した。

分科会は3つ用意され、各会に分かれて、発表・討議が行われた。第1分科会の主題は「異文化理解・国際交流」で次の2ユネスコ協会が報告した。（1）ウクライナ支援コンサート（土浦ユネスコ協会）（2）生徒の心に平和の砦を築くために（佐野ユネスコ協会）：大人から子どもまで心に響く平和への働きかけ・活動により、平和の砦を築くことができるよう活動を続けていきたいと報告。

第2分科会の主題は「世界遺産・未来遺産」で次の2ユネスコ協会が報告した。（1）こんぶくろ池自然博物公園（NPO法人こんぶくろ池自然の森）（2）未来遺産沼須人形芝居あけぼの座の活動と沼田ユ協の連携（沼田ユネスコ協会）：自然と共生する街づくり、地域の伝統芸能や文化遺産を保存推進することを小さい子どもから大人まで発信している様子を報告。

▲ 開会式

▲ 沼田ユ協分科会発表

第3分科会の主題は「科学・環境・ユネスコスクール」で次の2ユネスコ協会が報告した。（1）平和を考えるシンポジウムシリーズの開催・東京海洋大学との共創（港ユネスコ協会）（2）私たちの活動「学校支援協力活動」におけるユネスコスクールとの取り組み（蓮田・白岡地方ユネスコ協会）：地球環境の変化に対して何をすべきかユネスコ協会と大学における活動、ユネスコスクールの現状、キャリア教育の要請、学校支援協力活動の様子を報告。

次年度は2024年10月12日（日）茨城県土浦市つくば国際大学で開催される。　（事務局次長　木村　順子）

第79回日本ユネスコ運動全国大会 in 富士吉田
同時開催　中部東ブロックユネスコ活動研究会 in 山梨市
～世界遺産　秀麗な富士のふもとで会いましょう ユネスコを楽しもう　さあ～みんなでGO! 若い力を育む　富士の国からこんにちは～

2023年9月9日（土）富士吉田市のふじさんホールで開催された。群馬県からは各ユ協2～4名、計13名が参加。オープニングでは太鼓の演奏と県立吉田高校の音楽部の合唱で幕を開けた。

▲ 開会式

▲ 高校生によるシンポジウム

開会式は日本ユネスコ協会連盟会長佐藤美樹氏のあいさつ、続いて運営委員長山田勝彦氏、来賓は外務副報道官岡野結城子氏、文部科学省国際統括官渡辺正実氏、市長堀内茂氏、地元国会議員の祝電、長崎幸太郎山梨県知事（オンライン）の祝辞などがあった。

記念講演は「富士山と浮世絵～お江戸にタイムスリップ、デジタル化が明かした江戸庶民の文化～」という演題で牧野健太郎氏が行った。浮世絵をデジタルで大写しにして、描かれた人物を細かくみていくと、まさに何の商売している人か、何のしぐさか、何をしにいくところなのかなど、細かな分析ができ、説明を聞くと市井の情景が生き生きと浮かび上がる。浮世絵の観方が大きく変わった。

パネルディスカッションでは地元高校生3名とオンライン参加の愛媛県の高校生1名（国際理解コンクールで文部科学大臣賞を受賞、国連本部訪問）の4名が環境や社会、格差など体験から、自分が他人のために何ができるか、など、未来にチャレンジする力強い考えを述べていた。

山梨県の高校にユネスコ部があること、また、その高校の卒業生がシルバーになってもユネスコ活動に参加していることは驚きだった。

閉会後、会場をハイランドリゾートホテルに移し、約2時間懇親会が開催され、212名の会員が参加した。民謡や踊りの発表があり、和やかな雰囲気の中で会員同士の交歓がなされた懇親会であった。

（事務局長　依田　治雄）

祝

社会教育功労者群馬県教育委員会表彰

北川　紘一郎　県ユ連元副会長・世界遺産委員会委員長

2023年11月17日群馬県社会教育研究大会において、県ユ連元副会長・世界遺産委員会委員長北川紘一郎氏（桐生ユネスコ協会）が「社会教育功労者群馬県教育委員会表彰」を受賞されました。

特集

群馬県教育委員会運営方針

群馬県教育委員会では、これからの予測困難な時代を生きる子どもたちには、答えが一つに定まらない中で課題を発見し、解決に向けて自ら考え、多様な人々と協働する力や新たな価値を生み出す力、多様性を認め、自他を大切にする心などを、発達段階に応じて身に付けていくことが必要であると考えています。

令和5年度については、次の8つの基本施策に沿った取組を展開しています。これらの中には、県ユ連の取組と重なる考えを基にした施策も多く、それらを中心に以下にお示しいたします。

＜8つの基本施策＞

（1）時代を切り拓く力の育成

- 探究的な学びを充実させ、社会課題が複雑化・多様化する現代において、自ら課題を見つけ、多角的に物事を捉え、課題を解決する力を育成します。
- 郷土に愛着を持つとともに、自国の歴史や文化についての理解を深めた上で、積極的に異文化を理解し尊重する態度を身に付けたグローバル人材を育成します。

（2）確かな学力の育成

- STEAM教育を全県で推進し、各教科での学びを総合的・横断的に働かせて、現代社会や地域の課題解決や新たな価値の創造につながる力を育成します。
- ICTを活用した教育イノベーションを推進し、個別最適な学びと協働的な学びを通して、子どもたちの可能性を高めます。

▲県立北毛少年自然の家・登山

（3）豊かな人間性の育成

- 学校教育全体を通して、多様性を認め自他を大切にする心や、自己肯定感及び自己有用感を育み、社会性や規範意識を高めるなど、健やかな心の育成を図ります。
- 体験学習等を通じて本物の文化芸術や自然に触れることにより、豊かな感性を育成します。

（4）健やかな体の育成

- 群馬の未来を担う明るく元気な児童生徒を育むため、体力向上に向けた取組を推進します。

（5）信頼される学校づくり

- 各学校の特性を活かした質の高い教育を推進し、保護者や地域社会との信頼関係を深めます。
- 児童生徒の多様性を認め、様々な問題を抱える子どもたちに寄り添った教育を、関係機関等と連携しながら、発達段階に応じて行います。

（6）安全・安心な学びの場づくりと防災・危機対応能力の育成

（7）家庭の教育力向上と学校・地域の連携・協働の推進

- 市町村や民間団体と連携して家庭教育を支援します。
- 地域と連携・協働し、学校を核とした地域づくりを推進します。

（8）生涯学習社会の構築

- 学校・家庭・地域・NPOなどの連携・協力体制を構築し、社会教育や生涯にわたる多様な学びを推進します。

（群馬県教育委員会）

▲県生涯学習センター
「太陽の素顔と金星を見よう」

訃報　謹んでお悔やみ申し上げます

群馬県ユネスコ連絡協議会元会長

関口　実　氏

2023年8月14日に90歳にてご逝去されました。

2010年～2015年県ユ連会長。2014年度関東ブロック・ユネスコ活動研究会in群馬を主催、関ブロ大会の1日開催、重点化、簡素化に努力。以後研究会の基礎となっています。

あとがき

今年度は戦争で明け暮れた年だったと思います。

そして、それはまさに終わりの見えない戦争です。ユネスコの憲章がむなしく響きます。

そういう中でも、民間ユネスコを担う私たち会員は各地域の中でこつこつと、存在感を高め活動に、いそしんでいます。

広報の内容からわかるとおり、県、支部それぞれの活動が今年もしっかりと実施されました。

（編集委員長　依田　治雄）

あけまして
おめでとう
ございます

2024年 新年賀詞ご芳名

群馬県ユネスコ連絡協議会

会長	岸　正博
副会長	中村　利光
副会長	串田　昭光
副会長	田中　一枝
事務局長	依田　治雄
他役員・理事一同	

桐生ユネスコ協会

名誉会長	北川紘一郎
会長	田中　一枝
副会長	下山　進平
副会長	前原　勝良
副会長	竹内　靖博
副会長兼事務局長	高柳　光雄

太田ユネスコ協会

会長	中村　利光
副会長	馬場　敏生
副会長	堀越　　晋
副会長	菊池　直樹
副会長	半藤　一秀
副会長	金谷　光明
副会長	津布子寿夫
事務局長	磯崎　一博

前橋ユネスコ協会

顧問	阿久澤和夫
会長	矢島　俊夫
副会長	須藤　英雄
副会長	福島　輝巳
副会長	関根　長之
副会長	高島　美幸
副会長	宮川　孝子
副会長	中村　丙午
事務局長	樺澤富美男

伊勢崎ユネスコ協会

会長	長沼　宏泰
副会長兼事務局長	矢内三四外
副会長	横澤　克明
副会長	齋藤　文江
副会長	坂田　勝美

高崎ユネスコ協会

会長	串田　昭光
副会長	上田　一美
副会長	渡部　孝男
副会長	清水　哲夫
副会長兼事務局長	山﨑　貞幸
事務局次長・国内委員	松本千恵子

富岡ユネスコ協会

会長	矢野　英司
副会長	佐藤　信次
副会長	浅井　明美
副会長	齋藤　勝也

沼田ユネスコ協会

名誉会長	小林　照夫
会長	石田　宇平
副会長	宇敷　和也
副会長	森田　経代
副会長	村澤　玲子
副会長	原澤　直久
副会長	小野瀬和男
副会長兼事務局長	大島　俊夫

館林ユネスコ協会

会長	大野　泰弘
副会長	奥野　栄通
副会長	小林　　悟
副会長	荘司由利恵

安中碓氷ユネスコ協会

会長	矢野　　薫
副会長	矢野　　篤
副会長	瀧田　和則
副会長	儘田　尚実
副会長	瀬山　善郎
副会長	小林　克行
事務局長	小日向和博

藤岡地方ユネスコ協会

会長	岸　　正博
副会長	依田　治雄
副会長	新井　松江
副会長	平居　利朗
副会長	西澤　恭順
副会長	高橋　　博
事務局長	岩﨑　　哲
事務局次長	木村　順子

大泉ユネスコ協会

会長	寺西　弘之
副会長	槻岡　則夫
副会長	石井　克己
副会長	清水　喜義
事務局長	長澤　尚文

国際ソロプチミスト前橋

会長	飯塚　紀子
トレジャラー	森田　光子
日本東リジョンセクレタリー	布川　敏恵

群馬県ユネスコ連絡協議会 加盟団体（設立順）

- 桐生ユネスコ協会
- 太田ユネスコ協会
- 前橋ユネスコ協会
- 伊勢崎ユネスコ協会
- 高崎ユネスコ協会
- 富岡ユネスコ協会
- 沼田ユネスコ協会
- 館林ユネスコ協会
- 安中碓氷ユネスコ協会
- 藤岡地方ユネスコ協会
- 中之条ユネスコ協会（休会）
- 大泉ユネスコ協会
- 国際ソロプチミスト前橋

編集・発行

群馬県ユネスコ連絡協議会
発行責任者　岸　正博
群馬県前橋市大手町1-1-1
群馬県教育委員会生涯学習課内
TEL：027-226-4668

編集・印刷

株式会社大塚カラー
群馬営業所
群馬県高崎市足門町1637-7
TEL：027-384-3307